



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 TEL:0593-31-1670
 FAX:0593-32-0733

掲示板法話

厳しい冬は「心の田」を耕すときである

新年おめでとうございます。昨年から、急速に世界経済危機の影響が日本にも及び、新しい年の客観情勢は明るいものではないでしょう。

しかし、歴史を振り返るならば、一九七三年秋の石油危機は、今にも日本経済が沈没するような騒ぎでしたが、日本は真剣に省エネルギー化や環境先進的な技術革新に努力した結果、欧米よりはるかに早く立ち直った経験があります。厳しい「冬の時代」には、じっくり自らを見直して、今できることに努める覚悟こそ大切ではないでしょうか。

金子大栄先生の「人生をやり直す」とはできないが、見直すことはできる」という言葉を思い出します。古代インドにおける人生の区切りを今の時代に当てはめますとおおよそ次のように考えられます。

- ① 学生期(がくしようき)：基礎的なことを学び、トレーニングに励む時期。二五才位まで。
- ② 家住期(かじゆうき)：家庭をもち、家族を養いながら社会人として使命を果たして生きる時期。二五才〜五〇才位。
- ③ 林住期(りんじゆうき)：今一度人生

を見直し、余裕を見出し、身の回りや社会のためにできることをする。五〇才〜七五才位。

④ 遊行期(ゆぎようき)：とことん自分自身を見つめ、いつ訪れるかもしれぬ死を前に自然な生き方をする時期。七五才以降。

読者の皆さんの中には、「人生を見直す」眼をもちながら、尊い生き方を心がけている人が何人もおられます。ご門徒のIさんは幼い時に母と死別した切なさを親鸞聖人の境遇と重ね合わせながら、点字の翻訳を長年続けられ、昨秋社会福祉協議会から表彰されました。その喜びを「母の忌に賜はる賞や小春なる」という俳句を詠まれました。

宮城県に住む島本さんは、昨年六月の岩手・宮城内陸地震の被災地が生まれ故郷であったため、何かせずにおれぬ思いに駆られて残り布で亀を作り、匿名で六十個被災地に送ったそうです。その間、童謡・赤とんぼのメロディで「なまんだーぶ、なまんだー、……」と針の先を見ながら歌い続けているうちに、蓮如上人の「紙一枚も仏法領なり」のお諭しをかみしめて空気も水も針も糸も「おかげ」と気づかされ、仏恩のど真ん中

の自分であったと見直す縁になったそうです。このお便りを拝見しつつ、親鸞聖人がお若い頃、飢饉に苦しむ状況に思い立って三部経の千巻読誦を思い立ちながら、「唯念仏のみぞまこと」と思い直して、読誦をお止めになった話

を思い出しました。

「先祖方は冬の時期、春に備えて田畑を耕して過ごしました。お釈迦様に倣って「心の田んぼを耕す」ならば、柔軟に苦しみを乗り越える智慧を頂く新年になるのではないのでしょうか。



伊藤孝一様
 おめでとう！
 点字翻訳
 奉仕・表彰

☆行事ご案内☆

1/1朝9時より本堂で「元旦会」

新年のスタートを家族揃って本堂でお参りを！清々しさ抜群！

◇「報恩講」 講師:大島信隆師(大阪)

1/11(日)午後1時半・夜7時半(琴生演奏有り)

12(月)午前10時・午後1時三全仏婦主催報恩講

※11日午前11時より12時「お非時」(昼食)お召し上り下さい

※13日~16日の連続4日間朝7時より「お朝事」と茶話会

♪三重組コーラス♪

※1/8(木)午前10時半・陽光苑誕生会慰問24回目

※1/31(土)夜7時半練習、光あふれて、音楽法要他

◇キッズサンガ

12/31夜11時45分より「除夜の鐘」誰でも撞けます！

1/1朝9時「元旦会」(お年玉の菓子付)

◇一縁会テレホン法話059-354-14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索『新着情報』

『住職と坊守のつれづれ日記』おススメ！ほぼ毎日更新。



◇十二月十八日(木)大谷台小学校四年一組の「チャレンジ学習」に坊守が一日講師。突然依頼されて、お話、歌、クイズに楽しいひとときを過ごしました。

坊守スケッチ

「自灯明・法灯明」の自覚を持つとう!



世界中に不景気風が吹く暗い年明けとなった。わずか三カ月前に誰がこの事態を予想したであろうか? クリスマスケーキを「苦しみ増す景気」と皮肉って見たものの、冗談を言っている場合ではない。リストラの嵐は吹き荒れ、職ばかりか住居を失って、路頭に迷う人が日を追う毎に増えていく。もはや世界恐慌に突入の兆候すらある。

一年前、銀行などの金融機関の窓口では、ファイナンシャルプランナーという資格を持った人がいて「あなたの老後はこんな金融商品が最適です」と、自信たっぷりに勧めたものだ。最悪の事態になつて客が「信用していたのに騙された」と文句を言つても仕方ない。相手はリストラされるか、転勤で飛ばされているだろう。相手も「これは世の中全体の流れだから、私の責任ではない」と言い訳するだろう。プロだと信じて、他人任せにした客の側の方が大きい。

ところで今日のような事態を、お釈迦様は二千六百年前から予測された。お釈迦様の死が間近であると知った弟子の阿難は「先生が亡くなられたら、私達は誰を頼りに生きていけばいいのですか?」と心配した。お釈迦様は嘆く阿難に対して「自らを灯明として生きなさい。法を灯明として生きなさい」とお説きになった。これはお釈迦様の最後の説法だといわれている。

とかく私達は当てにならない他人の評価に左右されがち。「裏切られた」と他人を恨む前に、自分の判断が甘かったことを反省しよう。他人の言葉に惑わされないしっかりと自分自身を築き磨こう。これが「自灯明」ということだ。

世の中変わらないものは何一つない。こうこうと輝く明かりも、ひとたび異常の風が吹けば、たちまち消え去る。「法」とは物事の本来のあり方を示す「仏法」のこと。人生には行く先々どんな風が吹くか分からないが、どんな風が吹いても消えない灯火を持つとう。これが「法灯明」ということだ。

ところで私達は、毎朝夜明け前の暗闇の中を垂坂山目指して散歩する。途中、ライトを照らした車とすれ違う。私達からその車は確認し易く、車も衣服や靴の反射光で私達を確認できる。すれ違う人とも挨拶を交わす。満月の夜は特別に明るくいそいそと歩ける。大きな灯、小さな灯り、様々な人に出会うが、お互いの光を確認しあい、声掛け合いながら、暗闇でも安心して歩める。

二〇〇九年、暗い出来事、厚い壁が立ちただかろうとも、「自灯明・法灯明」の自覚を持つて乗り越えよう! 全て自己責任の覚悟が、誰を恨むことなく、あなたを迷いから救い、きつとどこかにトンネルの抜け道を見つかることだろう。

それにしても、二千六百年前のお釈迦様の遺言「自灯明・法灯明」が、混迷する現代にあっても、私の生きる指針になるとは、お釈迦様の教えは何と素晴らしいものではないだろうか?

☆奇 稿

四日市市 川崎 孝一

☆黄み走る 水つ吹き鴨脚樹眺めある 演奏会の 入堂待つに

☆今一度 秋收ならむか 誰しもが 思いは同じ 穂の垂れる余蘖

☆照り返し 地球に逼る 満月の 師走は更に 近くに在ると

☆四日市市 釈 弘蓮 するばかり

☆愚かなり ただおるおると

☆小春日や 墓建立の 散華かな

☆母の忌に 賜る賞や 小春なる

☆小春日に 福祉で賞を 賜りぬ

三重組コーラス

※一月八日(木)午前・陽光苑慰問

※一月三十一日(土)夜七時半 練習

※二月二十一日(土)夜第三土曜です

※三月二十八日(土)夜七時半

※四月二十五日(土)夜七時半

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇除夜の鐘(夜十一時四十五分より)

誰でも撞けます。一〇八回撞きます

◇元旦会(朝九時より)「正信偶」読

経。家族揃ってお参り下さい。お年玉

用の特別大袋菓子を用意します。

平成21年行事予定

1月11(日)・12(祝) 報恩講(大島信隆師)

3月21(土)・22(日) 永代経(久堀勝敏師)

4月11日(土) 三重組総代・仏壮研修会

5月31日(日) 門信徒会総会・講座(貴島信行師)

6月15日(月) 三重組仏教講習会(14~16日の中日)

8月22(土)・23(日) 永代経(足利孝之師)

9月20日(日) 地区仏教会追悼法要(石川欣也師)

☆ホットニュース

☆善正寺のホームページが公開! 仏事に
関する相談、お悩み等気軽にお寄せ下
さい。「三重 善正寺」で検索可。

※「住職と坊守のつれづれ日記」がおス
メ、好評! ほほ毎日更新。過去の日記
も右横にある「Archive」(アーカイブス)
2008。該当月をクリック。カレンダー
方式で出てきます。おかげさまで開設
四か月、十二月中旬でアクセス数が三
千百回を突破! 今までお寺とご縁がな
かった方や若者、子供の訪問に感謝。

☆カンバ有難う☆
柴田美津代様・KH様・片山たか子様・
小林みや子様・松岡愛子様・澤田美智
江様・島本邦子様・小川様・結城三春様
他匿名様より頂きました

お悔やみ申し上げます★
★水谷サチヲ様(尾平・八十歳・十二月
十二日) 合掌

1月11(日)・12(祝)	報恩講(大島信隆師)
3月21(土)・22(日)	永代経(久堀勝敏師)
4月11日(土)	三重組総代・仏壮研修会
5月31日(日)	門信徒会総会・講座(貴島信行師)
6月15日(月)	三重組仏教講習会(14~16日の中日)
8月22(土)・23(日)	永代経(足利孝之師)
9月20日(日)	地区仏教会追悼法要(石川欣也師)
3月11日(水)	新門様東海教区ご巡教(名古屋別院)
4月18(土)~5月31(日)	本願寺展(名古屋博物館)
5月22(金)~26(火)	本山御影堂修復完成慶讃法要
10月12(月)~16(金)	大谷本廟750回大遠忌法要

明けましておめでとうございます。つめでたさも中位なり
おらが春(二茶)江戸の俳人小林一茶は50歳の冬北信濃の故郷
に帰省しますが、継母や弟との遺産相続争いに巻き込まれ
ます。強引に決着後、52歳で若い28歳の妻と結婚、次々に4
人の子供に恵まれますが、いずれも幼くして死亡。妻も37歳
の若さで亡くなります。全くひとりぼっちになった一茶が詠んだ
句が「おらが春」です。晩年再々婚しますが亡くなる半年前
に母屋を大火で焼失、65歳で生涯を終えました。家庭的に
は恵まれなかった一茶でしたが、生活の苦勞、肉親との葛藤
、愛児愛妻の死別、孤独感が俳句への情熱をかき立てた
のではないでしょうかと、生涯二万句の俳句を残し、平易
な文体は、後世でも多くの人の心をとらえます。まましく
「ピンチをチャンスに変えた俳人」です。「おらが春」の儂
に下の句をもつけて私流短歌にしました。「めでたさも中位なり
おらが春 旅行できますも 毎朝日の出(亮子)」不幸せと
思える中にも 幸せの種はいっぱい見つけることができませ
いたくな暮らしに慣れきった人には、大変な時代に突入しまし
たが、ピンチをチャンスにとらえて 智慧を出し合い、新しい今
ネットワークを築きましょう。一月は元旦会(9時)に続いて善
正寺の「報恩講」月間です。11日午前(1時)と午後(午後、夜
(冥土演奏有))12日午前(午後(三全仏婦主催))法話大島
信隆師・お朝事(13日16日7時)三重組コース引(土)夜
皆様の協力とよろしくお願ひします。本年も「愛読者」
平成二十一年一月 合掌 善正寺坊守持